

■岡崎邦輔 政党政治家。陸奥宗光継ぐべく政界に進出し、藩閥打破・憲法擁護・普通選挙実現などに、奮闘した。

おかげさくにすけ

ペリー来航・1853＝ 和歌山藩士長坂寛弥の次男として和歌山城内三ノ丸の邸内(和歌山市南汀町)に生まれる。

父は藩の参政奥係をつとめ、家禄450石、母は同藩士渥美家の四女落穂。

桜田門外変・1860＝ 7歳：

生麦事件・・・1862＝ 9歳：

脱藩して国事に奔走していた従兄伊達宗興・陸奥宗光らの感化を受けて成長。

藩校学習館に入学、

大政奉還・・・1867＝14歳：鳥羽・伏見の戦には鼓手として出征した。

明治維新・・・1868＝15歳：

廃藩置県・・・1871＝18歳：

学問のすすめ1872＝19歳：権令宗興を頼って広島県庁に勤め、

明治6年政変 1873＝20歳：陸奥のもとで大蔵省に出仕、

さらに内務省・司法省に転じた。

大久保暗殺・1878＝25歳：新宮警察署長、

・・・1880＝27歳：和歌山警察署長に転じた。

明治14年政変1881＝28歳：

初の対等条約1888＝35歳：駐米公使となった陸奥に随って、アメリカに留学。

帝国憲法発布1889＝36歳：

帝国議会始・1890＝37歳：帰国、

足尾鉍毒始・1891＝38歳：*陸奥が代議士を辞任すると、その補欠選挙に立候補するため岡崎文左衛門の家に入籍、被選挙権を得、初当選。以後、紀州派の中心人物として陸奥の議会政略を支援し、

大本教・・・1892＝39歳：*独立倶楽部を結成。この頃から政界の策士としての手腕を磨き、

日清戦争始・1894＝41歳：

日清戦争終・1895＝42歳：日清戦後経営の実現のために、伊藤内閣と自由党との提携を周旋し、

八幡製鉄始・1897＝44歳：自由党に入党、ついで憲政党結成に参加するが、星亨とともに隈板内閣の分裂を策し、分裂後の憲政党を続く第2次山県内閣と提携させるため工作。

子規句歌革新1898＝45歳：

ビブ国産化・1900＝47歳：*立憲政友会の創立に参加し、続く第4次伊藤内閣には星通相のもとで官房長に就任。しかし陸奥の次男古河潤吉との縁で古河合名会社の理事に就任していたため、以後しばらく総選挙に立候補せず実業に専念、

日露戦争終・1905＝52歳：

満鉄発足・・・1906＝53歳：京阪電鉄取締役、

韓国反日暴動1907＝54歳：

アソキ創刊・1908＝55歳：東京府下より再び代議士に当選。

大逆事件判決1911＝58歳：*政友会政務調査会委員長、第1次護憲運動には桂内閣打倒の急先鋒として活躍するが、内閣倒壊後政友会が薩関山本権兵衛内閣の与党となったため尾崎行雄らとの義理合いから脱党し、政友倶楽部を組織。

明治天皇没・1912＝59歳：

やがて政友会に復帰し、

第一次大戦始1914＝61歳

総務、

以後政友会内のまとめ役として党内に重きをなす。

民本主義・・・1916＝63歳：

ロシア革命・1917＝64歳：京阪電鉄社長となる。

原敬首相暗殺1921＝68歳：原敬死後の後継総裁に蔵相高橋是清を推し、

護憲三派圧勝1924＝71歳：分裂後も政友会にとどまり、選挙委員長として奮闘、第2次護憲運動勝利の一因を作り、護憲三派内閣の公約、普選法をめぐる貴衆両院の対立を調停、同法成立に大きく寄与。

治安維持法・1925＝72歳：内閣改造に際して農相として入閣したが、すでに憲政・政友両党の対立は表面化し、就任後わずか3ヵ月で内閣総辞職となった。

共産党事件・1928＝75歳：*普選第1回の総選挙には立候補せず政界引退を表明、勲選貴族院議員となる。

以後政党の腐敗と凋落を憂慮しつつ、

満州事変・・・1931＝78歳：

帝人疑獄事件1934＝81歳：

二二六事件・1936＝83歳：二・二六事件の直後から発病、東京大井町の自宅で、没した。

平凡社百科事典、